



2021年に活躍が最も顕著であった競技者に送られるアスリート・オブ・ザ・イヤーは、Tokyo 2020（東京五輪）男子20km競歩銀メダリストの池田向希（旭化成・浜松日体出身）が受賞した。

「目標にしていた賞だったので光栄に思う。賞の名に恥じぬように、これからも1年、1年、結果を残せるように頑張りたい。競歩を人気種目にしたいという思いがあるので、今後も貢献していきたい」と喜びを語った。

また、同じく旭化成で活躍する川野将虎（御殿場南出身）が東京オリンピック競歩50kmでアクシデントに見舞われながらも、日本勢最高の6位入賞を果たした。

静岡県 陸協 会報

第 31 号 (2022年 2月25日発行)
一般財団法人
静岡県陸上競技協会

〒420-0032
静岡市葵区両替町2-3-6 (2F)
TEL・FAX 054-253-9801



【池田向希】

日頃よりご支援、ご声援賜り、誠にありがとうございます。

昨年は最大の目標であった東京オリンピックの20km競歩において、銀メダルを獲得することができました。そして、年末のアスレティックス・アワードではアスリート・オブ・ザ・イヤーを受賞させていただきました。これもひとえに、静岡県陸協を始め、協賛スポンサーと、大学卒業後も活動拠点として認めていただいている東洋大学、多々ご配慮いただいたものです。今後も日々精進し、静岡県の皆様に感動を与えられる選手を目指して参ります。

今後とも、ご支援、ご声援の程、よろしくお願いたします。



【川野将虎】

日頃より温かく応援してください、誠にありがとうございます。

昨年は、静岡県の皆様のご声援や、大学時代から現在もお世話になっている東洋大学、スポンサーの支えに恵まれた1年を過ごすことができました。また8月には高校時代からの憧れの舞台だった、東京オリンピックに50km競歩の代表として出場させていただきました。結果は6位入賞で、日本勢として50km競歩のオリンピック4大会連続入賞をつなぐことができました。この先も海外大会が続きますが、まずは海外大会の代表権を獲得し、その舞台で活躍する事で、静岡県の皆様に元気を与えられるよう、精進いたします。

今後とも、温かいご声援の程よろしくお願いたします。

競技力向上指導者研修会

令和 3 年 12 月 11 日（土）・12 日（日）に高体連主催の競技力向上指導者研修会が草薙陸上競技場で開催され、2 日間で延べ 150 名の指導者が参加した。

やり投げの指導について

～小規模校から全国高校総体優勝選手を輩出するまで～
令和 3 年度全国高校総体男子やり投げ優勝の清川裕哉選手（小山高校）を育てた田代浩一先生（三島北高校、前任・小山高校）に講習をしていただいた。講義では、清川選手が 3 年次に指導者不在という中で全国優勝を果たした、完全自立型のアシリートに成長するまでの過程、指導における重要なポイントについての話があった。



キャリア全体を見据えた種目選択をするための適性を見抜く力、発達段階を考慮した技術・体力の指導、練習に対する心構えや生活を自己管理する手帳指導、エビデンスに裏付けされたコーチング技術など、やり投げだけでなく、すべての種目に共通して競技力向上につながる充実した内容であった。実技では、清川選手が実演する形で、メイシングボールを使ったドリルなど、より実践的な内容を教わることができた。

中学から高校につながる・高校でさらに伸ばす！

～スプリント編～

静岡陸協強化委員会短距離・障害担当である加藤伸栄先生（磐田北高校）・土屋翔一朗先生（掛川西高校）・松野大樹先生（浜松湖東中学校）・渡邊諒先生（浜松春野中学校）に講習をしていただいた。講義では、スプリントは最大疾走速度を高めることが最重要課題であり、そのために必要なことは何か、データに裏付けされたスプ

rintのセオリーについて、参加者から事前にもらっていた質問への回答も交えながら話が進められた。実技では、中学段階から身につけておきたいスプリント動作の基本について、スプリントの S（支える）N（伸ばす）S（スイングする）というテーマのもと、様々なドリルを紹介してもらった。中学から高校につながる・高校でさらに伸ばすために、非常に内容の濃い研修であった。研修会の詳細な内容は、静岡陸協指導者育成委員会のページに掲載されていますので、ご覧ください。



高校新体カテスト満点者激減

県高体連は本年度、第二十二回高校新体カテスト記録会の結果を発表した。参加校全日制 136 校、定通時制 22 校。満点取得は全日制で、男子 101 人（48 人減）女子 220 人（73 人減）、定通制は満点取得はいなかった。これは、昨年度に比べ大幅な減少であった。

陸上競技部員の満点取得は男女合わせて全部活動中 8・72%、低下した原因として考えられることは、総合的に見て、感染症コロナ禍と生徒・運動部員数減が関係していることも否定できない。

東京オリンピックピック

藤枝明誠高校 清 尊徳

審判員として国立競技場に行きました。全国各地から集まったNTOの皆さんと競技の準備・運営・片付けに携わりました。通常の大会とは違い、驚く体験ばかりでした。使用した投てき物の確認や映像での距離計測(VDM)、投てきの困りは毎回、撤去と設置の繰り返し。コロナ禍で毎日PCR検査、無観客、補助の大学生や役員の不足、猛暑の毎日の中モーニングセッションとイブニングセッションの連続でした。痕跡を担当し



た時、投てき物の軌道が高い為、照明の光と重なり見えなくなる場面が何度もありました。恐怖心と痕跡を取らなくてはいけない責任感が交錯する場面がありました。また、フィールド内の片付けが深夜0時近くまで掛かり、次の日の朝の集合が午前6時ということもありました。『オリンピックは、クレイジーだ。』という言葉を審判打ち合わせで、責任者の鈴木先生がおっしゃっていました。まさに現場はそんな感じでした。教え子の飯塚翔太が3回目のオリンピックに出場した場面を生で観戦できたことが幸せでした。

選手華やか 京都に勢揃い

第四〇回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

一月十六日、コロナ禍、今回の大会は昨年の東京五輪、十一月の東日本女子駅伝・暮れの全国大学女子選抜(富士山)駅伝に出場した人気選手が大会を盛り上げた。

本県にゆかりのある選手も、他府県の代表に選抜され、大活躍したのが印象的であった、本県チームもレース展開中入賞圏内まで順位を引き上げたが、後半力つき14位に終わった。これも今後の課題として、更に精進していけば近い将来良い結果が待っていることを期待したい。関係スタッフの皆さんお疲れさまでした。(M・H)



県勢の区間記録

(区、距離、選手名、所属、記録、区間順位、通過順位の順)

1区	(6キロ)	清田 真央	(スズキ A C)	19分42秒	22	22
2区	(4キロ)	澤田 結弥	(浜松市立高)	12分52秒	14	16
3区	(3キロ)	世古 凧沙	(町清水中)	9分46秒	8	12
4区	(4キロ)	町 碧海	(スズキ A C)	13分5秒	9	10
5区	(4.1075キロ)	田島 愛理	(サレジオ高)	13分27秒	13	10
6区	(4.0875キロ)	清水 真帆	(ヤマダホールディングス)	13分2秒	3	6
7区	(4キロ)	兼子 心晴	(浜松市立高)	13分15秒	20	6
8区	(3キロ)	磯崎 心音	(吉田中)	10分14秒	11	7
9区	(10キロ)	竹山 楓葉	(ダイハツ)	34分0秒	33	14



静岡県市町対抗駅伝

浜松市北部が連覇、吉田町初V



第22回静岡県市町対抗駅伝競走大会（静岡陸上競技協会、静岡新聞社・静岡放送主催、県、県教委、県スポーツ協会共催）が4日、静岡市内の12区間42・195キロで行われた。県内35市町37チームが出場し、市の部は浜松市北部が連覇を果たし、終盤まで混戦となった町の部は吉田町が初優勝に輝いた。

市の部は23市25チームで争い、2位は浜松市南部、3位は御殿場市だった。町の部は12町12チームが参加し、2位に清水町、3位には長泉町が入った。



浜松市北部のアンカー神野（セルソース）が区間賞で優勝に花を添えた。地元愛知県の市町対抗駅伝では優勝に縁がなく、「陸上人生でとてもいい経験になった」と語った。

青学大時代に箱根路を沸かせた「山の神」神野大地は、初の駿河路でも貫禄の走りを見せた。

浜松市北部のアンカーとして出場 貫録の区間賞



〔編集〕
静岡陸協広報委員会・静岡陸協事務局
水谷陽介（編集・文責）
橋本美智夫（編集委員）
写真（陸協報道 大多和幸二）
（印刷・大日三協株）

